

部 会 報 告

ISO/TC 195 (建設用機械及び装置専門委員会) オランダ・デルフト国際会議報告

標 準 部 会

2012年5月22日～25日の4日間、オランダ国デルフト市で開催されたISO/TC 195 (建設用機械及び装置専門委員会)、SC 1 (コンクリート機械及び装置分科委員会) 及び各WG (作業グループ) の国際会議に日本代表として出席したので、その内容を報告する。

1. はじめに

ISO/TC 195 国際会議は例年5月に開催され、今年はおランダ規格協会 NEN (Netherlands Standardization Institute) の主催によりデルフト市内にある同協会ビルで下記日程にて行われた。

- 5月22日 ISO/TC 195/SC 1 (コンクリート機械及び装置；日本が幹事及び議長国) 会議
- 5月23日 WG 8 (自走式破碎機；日本がコンビナー)、WG 2 (用語) 各会議
- 5月24日 WG 5 (道路建設及び維持作業用機械) 会議
- 5月25日 ISO/TC 195 本会議

当協会は経済産業省施策による「国際幹事等国際会議派遣事業」の支援を受け、日本からは表-1に示す3名の関係者が参加した。

表-1 日本からの出席者

氏名	役割
大村高慶	ISO/TC 195 /SC 1 議長
田丸正毅	ISO/TC 195 /WG 8 コンビナー (主査)
小倉公彦	協会 ISO/TC 195 事務局, ISO/TC 195 /SC 1 及び WG 8 国際幹事

各国からの会議出席者は、[中国 (12)・ドイツ (10)] (ツイニング幹事国)、フィンランド (1)、スウェーデン (3)、フランス (4)、オランダ (2) (ホスト国)、英国 (1)、米国 (2) (暫定議長国)、韓国 (2)、日本 (3) 及び ISO 中央事務局 (1) で計 10ヶ国 + 1、計 40名であった。

※ ISO 規格関連略語の解説

NWIP：新規業務項目提案、WD：作業ドラフト、

CD：委員会ドラフト、DIS：国際規格ドラフト、DTR：技術報告書ドラフト、TMB：技術管理評議会、SC：分科委員会、WG：作業グループ

※※ CEN：欧州標準化委員会

【会議出席の目的】：

ISO/TC 195/SC 1 では、議長国として各国提案の進捗状況を確認するとともに、日本から新たに2件のNWIP (トラックミキサー Part 1：用語及び商業仕様、Part 2：安全要求) を提案する。

また、ISO/TC 195/WG 8 では、コンビナー国として昨年NWIPを行ったISO/NP 21873-1 自走式クラッシャー Part 1：用語及び商業仕様の投票結果見直しによる推進を図るとともに、各国意見につき議論する。

その他の各WG会議にも出席し、Pメンバー国として日本の意見を具申する。

さらに、ISO/TC 195 本会議においてSC 1、WG 8 の決議を報告するとともに、新たにツイニング幹事国となったドイツ・中国が選出したTC 195 新議長 (ドイツ) の就任に立会い、今後の方向性を確認する。

2. 会議概要

1) 5月22日 (終日) : ISO/TC 195/SC 1 (コンクリート機械及び装置) 会議

【出席者】：中国 (8)、ドイツ (8)、韓国 (2)、米国 (2)、スウェーデン (1)、ISO 中央事務局 (1)、日本 (3) / 議長：大村高慶、幹事：小倉公彦、他 田丸正毅 計 6ヶ国 + 1；25名

ISO/TC 195/SC 1 会議では、次の項目につき報告・討議・検討を行い、下記12件の決議が採択された。

決議1：2011年5月以降1年間のSC 1の活動について、議長国日本より報告し承認された。

決議2：ISO 18650-2 及び ISO 21573-1 の定期的見直しについて、コメントに対処する軽微な改訂を提案する為、日本は1ヶ月投票を開始する。

決議3：ポーランド提案 Test code on Compaction

diameter measurement(コンパクションダイアメターの測定方法)について、昨年行ったDTR投票の結果を受けて、プロジェクトを廃案とする。

決議4: 昨年末に自主キャンセルした日本提案 Concrete batching plants - Safety (コンクリートバッチングプラント—安全要求)について、CEN/TC 151/WG 8における prEN 12151 ドラフト作成の進捗を待って、日本はプロジェクトの再開につき CEN/TC 151/WG 8と協議する。

決議5: 昨年行ったNWIP投票の結果、不成立となった日本提案 Concrete placing machinery-Safety (コンクリートブーム付きポンプ車—安全要求)について、2013年中頃に完了予定の EN 12001 改訂を待って、日本は今後の対応につき CEN/TC 151/WG 8と協議する。

決議6: 米国提案 Concrete floating machine (コンクリートフローティングマシン)について、「第1部:用語及び商業仕様」及び「第2部:安全要求」の2部構成による作業項目としてISO中央事務局で登録する。新しいWGを結成し、日本は各国の専門家を招集する。米国がプロジェクトリーダーとなり、ワーキングドラフトを修正し回付する。

決議7: 日本新提案 Truck mixer (トラックミキサ)—「第1部:用語及び商業仕様」及び「第2部:安全要求」について、日本はウィーン協定下での合同作業グループとして prEN 12609 をベースにしたプロジェクトの提案が、本年9月のCEN/TC 151 WG会議で決定されるのを待つ。ドイツは、CEN/TC 151 会議の結果を連絡する。(CEN/TCにおけるWGはTCの直下に位置する組織で、ISO/TCにおけるSCに相当する)

決議8: 本年3月末に第2次NWIP投票を開始した中国提案 Concrete delivery pipes(コンクリート配管)—「寸法及び安全要求」について、日本はデルフト会議での中国プレゼンテーション資料を各国に回付し、各国は締切までに投票する。

決議9: 昨年行ったNWIP投票の結果、承認された韓国提案 Concrete placing booms (コンクリート打設ブーム)—「第1部:用語及び商業仕様」について、作業項目としてISO中央事務局で登録する。新しいWGを結成し、日本は各国のエキスパートを招集する。韓国がプロジェクトリーダーとなる。なお、今後、「第2部:安全要求」を提案する際は、別の作業グループで行う。

決議10: SC 1/WG 1 (コンクリートポンプ車—安全要求)は既に活動を停止しているため、解散する。

決議11: 中国新提案 Dry mixed mortar batching plant (ドライミクストモルタルバッチングプラント)—「用語及び商業仕様」について、日本はデルフト会議での中国プレゼンテーション資料を各国に回付し、各国は意見をフィードバックする。寄せられた意見を元に、日本は中国と協力して提案の内容を修正し、NWIP投票を開始する。

決議12: 米国は、次回ISO/TC 195/SC 1会議を2013年5月にイリノイ州シカゴで開催するよう招致する。

以前より難航していた日本提案2件のうち、決議4においては、DIS登録期限切れで自動キャンセルされるのを避ける為、いったんプロジェクトを自主キャンセルした上で、EN規格のドラフト作成完了後に再度協議することとした。また、決議5においては、欧米の主張と平行線のままであった為、EN規格の改訂完了後に改めて協議する余地を残し、いったんプロジェクトを削除した。

一方、決議7においては、ウィーン協定に従いCEN/TC 151との協業でISO規格化を進めるかたちで、日本の提案が受け入れられた。



写真—1 ISO/TC 195/SC 1会議風景(中国, 米国, ドイツ他)

2) 5月23日(午前): ISO/TC 195/WG 8 (粗骨材処理用機械及び装置) 会議

【出席者】: 中国(3), ドイツ(2), 韓国(2), スウェーデン(1), 英国(1), 米国(2), ISO中央事務局(1), 日本(3) / コンビナー: 田丸正毅, 幹事: 小倉公彦, 他 大村高慶 計7ヶ国+1; 15名

ISO/TC 195/WG 8会議では、次の項目につき報告・討議・検討を行い、下記4件の決議が採択された。

決議1: 専門家参加国数がNWIP成立基準に達したことを受け、投票結果を見直す。7ヶ国の専門家が積



写真一 2 ISO/TC 195/WG 8 会議風景 (米国, スウェーデン, 日本, 中国)

極参加する。日本は ISO/NP 21873-1 の投票書式 6 最終版を幹事国に提出し、プロジェクト成立を ISO 中央事務局に確認する。

決議 2: 日本コメントに従い、ISO/NP 21873-1 プロジェクトを WD 段階へ進めることが WG 8 内において基本的に了承された。日本は試験手順・方法や重複する要求事項を省くというコメントを織り込んだドラフトを作成し、メンバー国へ送付する。

決議 3: ISO 21873-1 に記載されている商業仕様の性能レベルについて、製造業者が安定的に測定できる方法の規格化には意義がある。更に、性能試験に関する専門家の知見を集め、昨年の会議で NWIP 否決された ISO/NP 21873-3 ドラフトをベースに新たな文書を作成するが、固有の試験方法だけを用い、ISO 21873-1 で既に規定した内容と重複しないよう配慮する。その他の国家及び地域規格が自走式破碎機に適用されるので、これらを考慮したうえで作業を進める。日本は ISO/NP 21873-3 の投票書式 4 を用意し、TC 195 幹事国から ISO 中央事務局へ提出し処理する。ISO/NP 21873-3 の目標準備時期は、NWIP 投票の締切後、投票結果を考慮したうえで、可能な限り ISO/WD 21873-1 と同じタイミングで回付するよう配慮する。

決議 4: 日本は必要に応じ、次回 WG 8 会議（ウェブ会議或いは実際の会合）を設定しプロジェクトの進捗を図る。また、2013 年 5 月にシカゴで開催予定の次回 TC 195 本会議の際にも、WG 8 会議を開催する。

今回復活することとなった ISO/NP 21873-3 は、昨年の北京国際会議で米国他から「WD 21873-3 の試験項目は ISO 21873-1 (用語及び仕様) の引用が殆どであり、独立させる程の内容に乏しく制

定不要」と指摘され、やむなく否決を受け入れ、ちょうど定期的見直し時期が来ていた ISO 21873-1 にその内容を織り込むに至った経緯がある。それが、決議 3 において、ドイツ新議長の方針により再び評価され、ISO 21873 シリーズ開発当初の目標達成を改めて目指すこととなった。自走式破碎機の性能試験に関わる専門家の知見が不可欠であり、席上で参加各国にドラフト作成への積極的協力を呼びかけた。

3) 5 月 25 日：ISO/TC 195 第 21 回本会議

【出席者】: 中国 (6), ドイツ (7), フィンランド (1), フランス (4), オランダ (1), スウェーデン (2), 英国 (1), 米国 (2), 韓国 (2), ISO 中央事務局 (1), 日本 (3) / 議長: Hartdegen 氏 (ドイツ), 幹事: Kampmeier 氏 (ドイツ) / 書記: ドイツ 2 名, 中国, フランス, 日本より各 1 名, 計 10 ケ国 + 1 ; 30 名

今回のデルフト国際会議に先立ち、上位組織である ISO/TMB 投票において議長に推薦、承認されたドイツ Hartdegen 氏が、本会議の冒頭で暫定議長 Moss 氏より議長職を継承した。



写真一 3 ISO/TC 195 議長就任セレモニーの一幕 (ドイツ, 中国, 米国)

ISO/TC 195 の適用範囲及び用語規格との整合について議論するにあたり、ドイツ新議長 Hartdegen 氏は、交代を契機に ISO/TC 195 の再構築及び改編を提案し、将来の方向性として、新しい組織構造、TC での作業を反映した用語規格、責任範囲の明確化、WG 及び SC における作業の構造的なプロセス一体化などを通じて ISO/TC 195 の発展を図りたいとの意向を表明した。ISO/TC 127 との協業、ウィーン協定の下で

CEN/TC 151 との協業を図り、重複した作業の削減を目指す。

ドイツ幹事 Kampmeier 氏が、中国・ドイツによるツイニング幹事国体制、及びツイニング議長体制について報告し、議長任期に関するドイツ提案についても ISO/TMB 決議で確認されたことを明らかにした。今後5年間(2012-2016年)は、Hartdegen氏が正式なTC 195議長である。(2015-2016年はドイツと中国のツイニング議長、2017-2019年は中国 Li Jing 女史が議長、以降3年毎に交代する予定)暫定議長としての Moss 氏のこれまでの貢献に対し、参加各国は感謝の意を表した。

ISO/TC 195 本会議では、次の決議が採択された。

決議 1: TC 195 幹事 Kampmeier 氏が新幹事国体制について紹介した。SAC(中国国家標準化管理委員会) Jiang Hui 女史と DIN (ドイツ規格協会) Kampmeier 氏が新しいツイニング幹事となる。

決議 2: TC 195 幹事 Kampmeier 氏による TC 195 の活動報告が承認された。

決議 3: SC 1 大村議長による決議報告が承認された。

決議 4: WG 2 コンビナー代理 Moss 氏による決議報告が承認された。

決議 5: WG 5 コンビナー Piller 氏による決議報告が承認された。

決議 6: WG 8 田丸コンビナーによる決議報告が承認された。

決議 7: ISO/TC 195 議長及び幹事は、ISO/TC 195 の適用範囲見直し及びそれに伴う組織改編の原案を作成する。これによって他 TC の様に、より明確に区別されると期待するが、複数の SC を設立した場合の P メンバー年会費への影響も考慮する。次回 2013 年 5 月シカゴで開催予定の ISO/TC 195 本会議の 4 ヶ月前迄に原案作成作業を完了させる。全ての参加国は、年会費について自国の標準化機関に問い合わせる。各国の幹事は、回答を ISO/TC 195 幹事国へ提出し、前記の提案において考慮する。

決議 8: Moss 氏を WG 2 のコンビナーとして支持する。

決議 9: WG 1 (分類) を解散する。

決議 10: WG 6 (手持ち式機械及び装置) を解散する。

決議 11: WG 7 (手押し式締めめ機器) を解散する。

決議 12: ISO グローバルディレクトリ上の専門家登録手続に関する Kampmeier 氏の説明に従い、各国標準化機関は各 SC, WG の専門家を登録し、定期的に ISO グローバルディレクトリサービスの登録情報を確認すること。必要な場合、専門家は連絡先のアップデートを所属する国の標準化機関に要求する。

決議 13: ISO ライブリンクに関する Kampmeier 氏の説明に従い、各 SC, WG の幹事は ISO ライブリンクシステムを通じた情報提供の責任を有する。専門家はこのシステムを活用し、作業文書を入手する。

決議 14: ISO 専門業務指針の最近の変更に関する ISO 中央事務局 Kennedy 氏の説明を受けた。詳細は右記 URL を参照。www.iso.org.

決議 15: ISO/TC 127 のリエゾンレポートに関する Crowell 氏の説明を受けた。

決議 16: ISO/TC 214 の活動に関する Moss 氏の口頭報告を受けた。

決議 17: ISO/TC 110/SC 4 の活動に関する Patrice Caulier 議長代理 Moss 氏の報告を受けた。

決議 18: CEN/TC 151 のリエゾンレポートに関する Kampmeier 氏の説明を受けた。

決議 19: 次回 ISO/TC 195 本会議及び関連 SC, WG 会議は、2013 年 5 月 13 ~ 17 日に米国イリノイ州シカゴで開催される予定。(ミルウォーキーも検討中)

決議 20: 参加者一同は、会議場所を提供したオランダ NEN に感謝すると共に、会議及び晩餐会を主催したオランダ NEN とドイツ DIN に対し感謝の意を表す。



写真—4 ISO/TC 195 本会議出席者

4) その他の WG 会議

5月23日午後に WG 2 の会議が、5月24日には WG 5 の会議が開催されたので、それぞれ下記に結果概要を記す。

(1) 5月23日(水) WG 2 (用語) 会議

ISO/TC 195/WG 2 会議では、次の3件の決議が採択された。

決議 1: TC 195 の適用範囲と用語規格の調整について Hartdegen 氏より提言があり、5月25日の TC 195 本会議で更に議論する。(前述)

決議 2: コンビナー代理 Moss 氏の提案を支持し、5月25日の TC 195 本会議で新コンビナーを確認する。(前述)

決議 3: 今後の作業項目について、5月25日の TC 195 本会議で議論する。(前述)

(2) 5月24日(木) WG 5 (道路建設及び維持作業用機械) 会議

ISO/TC 195/WG 5 会議では、次の4件の決議が採択された。

決議 1: 定期的見直しにおいて ISO 15643 結合材撒布車規格を見直した結果、FDAM 投票が承認され、まもなく発行される。

ISO 15645 路面切削機械、ISO 16039 スリップフォームペーパ、ISO 22242 用語の各規格を見直した。幹事国ドイツはコメントへの回答を専門家に回付し、専門家は軽微な修正 (Minor amendment) / 軽微な改訂 (Minor revision) のいずれかで処理するか、判断材料をドイツに示す。

決議 2: ISO 15878 定期的見直しの結果、変更なしで確認したが口頭コメントあり。参加国は追加コメントを幹事国ドイツへ送付する。コンビナーと幹事国はコメントを見直し、今後の進め方につき提言をまとめたうえ、参加国へ回付する。

決議 3: ISO/TC 195 が新体制を確立するまでの間、2010年ワルシャワでの決議に基づき WG 5 と WG 7 が協力し WG を結成する。これらのプロジェクトはウィーン協定の下、ISO/TC 195 のリードで進める。

幹事国ドイツは新たな WG の専門家を招集すると共に提案国としてドラフトを準備し、各国専門家はドラフトに対するコメントを返送する。

決議 4: ISO 15143, ISO 13766 に関する ISO/TC 127 との協業、及びオフロード・シナジー (協同) グループに関するドイツの報告を受けた。

5) ISO/TC 195 の動向

昨年の北京国際会議の後、ドイツと中国が幹事国ツイニングに合意したことが伝えられたが、ポーランド退任後、本年1月から両国が活動を開始した。また、TMB 投票でドイツ Hartdegen 氏が新議長として承認された。今回の本会議での方針表明を受け、ISO/TC 195 の新組織体制構想が次回会議で示される予定である。

6) 所感

この国際会議は今回で21回目になる。これまで O メンバーだったオランダがホスト国となり、合わせて P メンバーに仲間入りしたことで、ISO/TC 195 の P メンバーは計17ヶ国となったが、永年幹事国を務めてきたポーランドが退任、ドイツ・中国のツイニング幹事国・議長による新体制となり、転換期を迎えたといえる。日本は SC 1 議長国・WG 8 コンビナー一国の地位を堅守しながら、P メンバー国の一つとして ISO/TC 195 の組織改編に参画して行くことが、建設機械産業における国際競争力維持・発展の為に重要と考える。

7) その他

今回初めて ISO/TC 195 国際会議の開催地となったデルフトは、デン・ハーグの南に位置するオランダの古都であり、アムステルダム - スキポール国際空港からデルフト駅へは NS (オランダ鉄道) を利用して1時間ほどで移動できる。

昨年までは、開催国の市街地にある大きなホテルの会議室で国際会議が開催され、同じホテルに宿泊できたが、今回は NEN 会議室 "Delftzaar" での開催となり、出席国は自分でホテルを予約し、自力で NEN へ辿り着くことが要求された。(各国の標準化機関が会議室を無償で提供している為、ISO/TC 127 など他の TC, WG 国際会議では以前から行われている。)



写真一五 ISO/TC 195/WG 5 会議風景 (ISO 中央事務局, ドイツ)



写真一六 NEN (オランダ規格協会) ビル

日本の使節団が宿泊した Hotel de Ark は、デルフト駅の東側に位置し、市街を縦横に走る運河沿いにあり、古い街並みに溶け込んでいた。

デルフト駅前には路面電車や市営バスの乗降場もあり、

NS と共通の IC カードで利用できる。駅東側の広場は大規模再開発工事中で、コンクリートブーム付きポンプ車をはじめとする様々な建設機械が稼働していた。



写真一七 ホテル前の運河に架かる橋の上から旧デルフト教会を望む



写真一〇 デルフト駅前の工事現場で稼働中の路面清掃車



写真一八 デルフト駅舎前の工事現場で稼働中のコンクリートブーム付きポンプ車とトラックミキサ



写真一一 デルフト駅前の工事現場で駐機中のタイヤ式油圧ショベル（軌陸車仕様）



写真一九 デン・ハーグ市内で駐機中の屈折ブーム式高所作業車



写真一二 デルフト駅前の公道を走行中のホイールローダ

NEN は、すぐ隣のデルフト南 (Delft zuid) 駅から徒歩約 10 分の処にあるが、会議初日にデルフト駅から各駅停車 (Splinter) に乗るべきところ、同じホームに来る急行 (Intercity) に乗った為、3 駅先のロッテルダムまで行き過ぎ、反対方向へ引き返すハプニングもあった。なお、他日、デルフト駅前から市営バスで NEN まで行く方法を試したが、時間当りの本数や所要時間、バス停からの距離など、NS と大きな差はなかった。

フェルメールの故郷として知られるデルフトは、青色の陶芸品でも有名で、市内にはその歴史を物語る中国・景德鎮の磁器を模した街灯なども見られた。



写真一 13 中国より伝来した景德鎮の磁器を模したデルフト市内の街灯

また、NS の乗継ぎ駅であるデン・ハーグには、フェルメールの代表作が所蔵されているマウリッツハイス美術館があり、会議開催時には「真珠の耳飾りの少女」が日本へ貸し出される直前で、まだ展示されていた様である。



写真一 14 デン・ハーグ市内のマウリッツハイス美術館

ギリシャ財政危機、フランス首相交代など、欧州の不安定な経済・政治情勢が日々伝えられるが、オランダでは沢山の列車が滞りなく運行され、至る処で建設工事が行われており、短い道中で不景気を感じさせる事象に巡り合うことはなかった。

(協会標準部会事務局記)